

月例研修会 (歴史共催)

早春の山辺の道を歩く

3月24日(火)快晴。陽光は春の輝きだが、風は真冬並みの冷たさだ。参加者は24名。

JR長柄駅すぐの官幣大社「大和神社」では遣唐使が航海の安全を祈ったという。かの戦艦大和にはこの神社の分霊が祀られていた。川井さんは「靈験があったとは思えないなあ」とぼつり。

これから訪れる「大和古墳群」は古墳時代初期の古墳群で国史跡に指定されている。「下池山古墳」の頂上からは古代史の舞台、青垣に囲まれた奈良盆地南部が一望である。山辺の道を北上すると萱生には良く剪定された刀根早世柿の畑が広がる。哀れミカン畑となっている「西山塚古墳」に隣接する萱生集落を過ぎ、竹之内環濠集落に入る。前方の山裾にかかっていた黒い雲が見る間に近づいてきて、強風と共にみぞれが激しく降り始めた。

「夜都伎神社」の拝殿は茅葺屋根で印象的だ。この社地はもともと竹之内が所有していたが、水不足に悩み乙木の「ため池」と交換したとされる。



「内山永久寺跡」にかかる。永久元年(1113)創建時は大和有数の大寺院だったが、明治の廃仏毀釈で廃寺となった。立て看板の絵図で往時を偲ぶしかない。

「石上神社」は神さびた厳かな雰囲気醸している。摂社「出雲建雄神社」の唐破風の拝殿は永久寺から1914年移築されたもので、国宝に指定されている。ここで解散。三々五々天理駅へ向かった。
(歴史クラブ 中井弘)

歴史研修会

長岡京跡と桜を訪ねる

4月14日(火)生憎の雨である。26名が参加。バス車内で川井代表、坂東氏、杉本氏から長岡京遷都の背景などの講義を受ける。

平城京が抱えていた陸路を使わざるを得ない物資輸送問題を解決するため、桂川、宇治川、木津川の合流地点に新都を建設したとのこと。

向日町文化資料館では、発掘された遺構から平安京や平城京と同規模と判り、仮住まいの都でなかったことが明確である。昭和30年に朝堂院跡が発掘されてからようやく「幻の都」の全体像が明らかになってくる。宮殿は発掘された瓦で難波宮から移築されたものと判明。わずか10年で平安京に遷都するが、藤原種継が暗殺されて以来、桓武天皇周辺で変事が相次ぎ、更に二度の洪水で都が大被害を受けたためとされる。また、相良親王の怨霊に怯えた脱出だったとの説もある。

ガイドの案内で、天皇が10年間政治を司った「大極殿跡」、役所であった「朝堂院跡」、大伽藍であった「石塔寺」、種継が射殺された「島坂」、奈良時代創建で日本書紀神代記下巻を所有する「向日神社」などを巡った。

次いで旧御室御所「仁和寺」を訪れる。中門を



入ると御室桜の群生が目飛び込む。樹高は低い根元から咲き

乱れ、春雨に打たれた花びらが地面を覆っている。起源は平安時代にさかのぼるが、現在のものは江戸時代初期のものという。

バスは予定時間に奈良に帰着。古代史に、花見に楽しんだ一日であった。

(歴史クラブ 中井弘)